

科目「Discussion & Debate」の開発

～国際化社会で生きる「話し合う力」の育成を目指して～

外国語科 工藤泰三

筑波大学附属坂戸高等学校では、グローバル化社会を担う人材の育成のためにさまざまな国際教育活動を展開している。そのうちの一つである教科「国際」および同教科の科目開発は、行事に頼る国際教育からの脱却と継続的な人材育成の実現を図るものである。本論では、その科目の一つである「Discussion & Debate」の開発の概要を紹介し、その成果と課題を明らかにするものである。

キーワード：国際教育 ESD(持続発展教育) 校外学習 教科「国際」 学校設定科目

1. 科目開発に至る経緯

筑波大学附属坂戸高等学校(以下「本校」と言う)は、地域社会の担い手を育てるために1946年に学校組合立の学校として創立され、その後東京教育大学(現・筑波大学)への移管、学科の改変などを経て、1994年に日本最初の総合学科高校の1つとして新たなスタートを切った。そしてその後、総合学科の特長を生かし、国語・数学などの普通教科に加え、農業科、工業科などの専門教科においてもさまざまな科目の開発・実践に取り組んできた。

国際教育および持続的な発展のための教育(ESD: Education for Sustainable Development)の充実・発展をめざし、本校ではこれまでも各教科における取り組みを進めてきた(例えば石井(2005)、今野(2012)など)が、ESDにおいてはある事象を多面的に捉えることが必要であり、教科の枠にとらわれない形での取り組みの必要性が高まった。そこで本校では校内委員会である国際教育推進委員会が中心となり、新たに学校設定教科である国際科を設置し、その中に「国際社会」「Discussion & Debate」「比較文化論」「Global Studies」の4科目を設け、教員・教科間の連携を図りながら国際教育・ESDの推進を行うこととした(工藤ほか(2012))。

本論で扱う「Discussion & Debate」(以下「D&D」と言う)は、グローバル化が進み、日本においても外国との関係を見無視して諸相を語る事が不可能となり、それに伴って日本人同士だけでなく海外の人々とも意見を交換しながら協働することができる能力の必要性が高まる中で、日本社会に見られがちな単一性・没個性にとらわれず、他者の意見を尊重しつつ自らの意見を明確に表現す

ることができる能力を生徒に身につけさせることを目的として立案され、平成23年度にシラバスが作成され、同24年度より開講されている。

2. 科目の概要

2.1. 科目の目標

前項で述べたねらいを達成すべく、シラバス作成に際し本科目の目標を次のように定めた。

- (ア) 課題解決に向けたディスカッション・ディベートを行うために必要なことは何かを知る。
- (イ) 課題解決に向けたディスカッション・ディベートを行うために必要な情報を集めることができる。
- (ウ) 日本語および英語でのディスカッションを行い、課題の解決に貢献できる。
- (エ) 日本語および英語でのディベートを行い、手順ののちで効果的な意見の交換を行うことができる。

(ア)の「必要なこと」として想定されるのは、ディスカッションやディベートを行う際にとるべき態度や姿勢、言語運用能力、議論に必要な情報などであり、担当者としては特に態度・姿勢を意識し設定した目標である。また(イ)は情報収集能力を、(ウ)と(エ)は議論を通して得られる成果を意識した目標である。

2.2. 授業内容

授業内容としては次の活動を行うことを計画した。

【通年】エッセイ・ライティング演習：与えられたテーマについて自分の意見を簡潔に（日本語の場合 400 字程度、英語の場合 100 語程度に）まとめて提出する。

【1 学期】

- ディベートの基礎（4～7 月）：身近なトピックについてのディベートを通し、ディベートに必要な要素について考えるとともに、相手の意見を踏まえながら自身の意見を述べる。1 つのトピックについてまず日本語で、次に英語でディベートを行う。

【2 学期】

- ディベートの実践（9～11 月）：与えられたテーマについて、グループのメンバーと協力しながら必要な情報を収集するとともに、相手の意見を踏まえながら自身の意見を述べる。1 つのテーマについてまず日本語で、次に英語でディベートを行う。

【3 学期】

- ディスカッションの実践（12～3 月）：与えられたテーマについて、他者の意見を踏まえながら自身の意見を述べ、クラス全体の合意を形成する。1 つのテーマについてまず日本語で、次に英語でディスカッションを行う。

通年の課題として設けたエッセイ・ライティングについては、ディベート／ディスカッションを日本語で行う週には英語の、ディベート／ディスカッションを英語で行う週には日本語のエッセイを書かせ、次回のディベート／ディスカッションに向けた準備を兼ねる形とした。

なお、3 学期のディスカッションにおいては、2.4 で述べるとおりに科研費による研究を行ったため、当初の予定と授業の実際とが大きく異なってしまった。

2.3. 評価方法

生徒への評価は次の項目に基づいて行うこととした。本科目は生徒たちが持つ知識量を高めることを目的とはしていないので、具体的な活動を基に評価することとした。課題（エッセイ）や定期考査においても、書かれている内容より、意見表明文としての構成の適切さを主眼に置いて評価することとした。

(ア) 授業内の活動（50%）：議論への参加、課題解

決への貢献度*など

*貢献度評価には生徒による自己評価を含む

- (イ) 課題（20%）：提出物の評価
- (ウ) 定期考査（20%）：日本語および英語による論述問題（辞書使用可）
- (エ) 平常点（10%）：出席状況、積極性など

2.4. 授業で扱った議題・論題

ディベートの論題やディスカッションの議題については、「身近な話題」から「地球的課題」へと移行していくことを念頭に置き、初めの 2 論題についてはあらかじめ設定しておいたが、その後の論題・議題については授業を進めながら担当者間で話し合っ決めていくこととした。なお本授業は外国語科教員と外国語指導助手（ALT）とのチーム・ティーチングで担当した。

実際に扱った論題・議題は次の通りである。

<ディベート論題>

- 1) 筑坂（本校）に制服は必要である
- 2) 筑坂に給食は必要である
- 3) 英語は小学校から教えるべきである
- 4) 2020 年のオリンピックは東京で開催すべきである
- 5) 日本の大学の学年は 9 月開始とすべきである
- 6) 日本はサマータイム制を導入すべきである
- 7) 動物園は廃止すべきである
- 8) 大学入試センター試験は廃止すべきである

<ディスカッション課題>

- 1) 日本人高校生がレイテ島のためにできること

なお、ディスカッション 2 回目からは、平成 23-25 年度科学技術研究費補助金（基盤研究（C））『国際理解教育・国際教育協力のためのデジタル紙芝居教材の構築法に関する研究』（研究代表者：村松隆）の研究活動の一環として、“Finding ‘Hidden’ Problems”と称し、海外で撮影された写真を見て、その光景からどのような問題がそこに存在しているか、その問題の原因となっているものは何か、そしてその問題を解決する（あるいは状況を改善する）ためにどのような方法が考えられるかをグループごとに話し合う活動を行った。この活動についての詳細は工藤ほか（2014）を参照されたい。

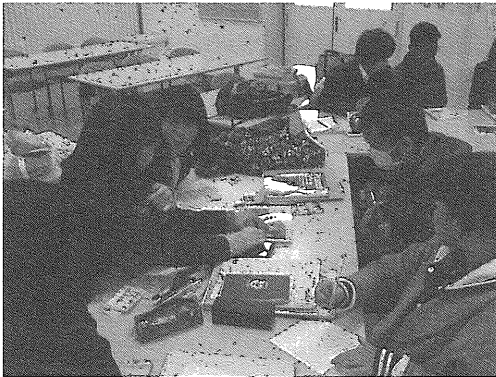
3. 授業の実際

平成 25 年度の本科目の受講者は男子 1 名・女子 7 名の計 8 名であったが、うち女子 1 名が前年の 12 月よりニュージーランドに留学したため、実際は計 7 名であった。

3.1. 授業担当者の所感

1～2 学期のディベートは、全国高校生英語ディベート大会（全国高校英語ディベート連盟主催）のルールを参考に、資料 2 に示す流れで実施した。

指導の際に特に重視したのは、立論の際に Introduction（自分たちの主張を明確にする）・Body（主張を支持する情報（理由、具体例、データなど）を述べる）・Conclusion（意見をまとめる）の 3 部構成を適切に作るべきであるということである。これを行うことで、Introduction と Conclusion の内容にズレがないかを確認できるとともに、どのような情報を Body に含めると自分たちの主張をより強力にできるかを考えることができる。



グループでのディスカッション活動の様子①
(本校訪問中のインドネシア生徒と)



グループでのディスカッション活動の様子②
(本校訪問中のインドネシア生徒と)

回を追うごとに生徒たちのディベートの進め方は的確

になっていった。特に意見の構築においてはほとんどの生徒が前述の 3 部構成をきちんと組み立てることができるようになった。課題のエッセイ・ライティングにおいてもその 3 部構成を用いて簡潔なエッセイを書くことができるようになった。

予想はしていたが、生徒が苦慮していたのは英語の使用である。エッセイ・ライティングにおいては辞書などで調べながら、あるいは事前に添削を受けるなどしながら誤りの少ない文章を書くことができた生徒が多かった。しかしディベートにおいて、特に相手側へのアタックやディフェンスにおいては、事前に十分に準備することができないため、即時的に英語で考えを述べる必要がある。この点においてスムーズに対応できた生徒は少数で、通常の英語科目との連携をとりながら口頭での発表能力の向上を図る必要がある。

3 学期のディスカッションにおいても、意見の組み立て方については能力の向上が見られたが、英語の運用については十分な成果が得られなかった。日頃の英語の授業の中で「口頭で英語を使って意見を表明する」という活動を行うことは難しいため、本科目にその不足を補う役割を期待したが、この点については指導方法および練習量の改善が必要であろう。

3.2. 生徒へのアンケート調査

学年末に受講者対象に実施したアンケート（アンケート用紙は資料 3 を参照）の結果を表 1 にまとめる。回答数が 7 と非常に少ないため、客観的なデータとは言い難いが、本科目を受講した生徒がどのように感じたかを知る上では大いに参考になろう。なお、「平均値」は「よくあてはまる」を 4、「全くあてはまらない」を 1 とする 4 件法での回答を平均したものである。

質問番号	質問内容	平均値
1.	全体的に有意義	3.4
2-1.	目標(ア)	3.4
2-2.	目標(イ)	2.9
2-3.	目標(ウ)	3.1
2-4.	目標(エ)	2.6
3-1.	批判的な態度	3.1
3-2.	主体的な態度	2.9
3-3.	他者の意見を聞く	3.4
3-4.	意見を明確に述べる	3.0
3-5.	日本語での表現	3.0

3-6.	英語での表現	3.4
3-7.	議論・討論の重要性	3.6
4-1.	統合性	3.3
4-2.	文脈化	3.3
4-3.	批判的思考性	3.6
4-4.	個人・社会変容性	3.4
5.	後輩に受講を勧めるか	3.4

表1 授業アンケートの結果

全体的に肯定的な回答を得られたが、その中でも特に肯定的回答が多かったものが質問番号 3-7「この授業を通し、以前よりも議論・討論が大事だと考えている」であった。このことは、さまざまな課題について考えるとき、自分の考えを組み立てるのに加え、他者の意見を聞き、必要に応じて意見を修正したり、不足する情報を収集したりしていく必要があることを生徒たちが感じてくれたことを示しているのかもしれない。また質問 3-7「この授業は、理論立てて考える力（批判的思考力）を高めてくれた」の回答も肯定的であったが、これは日本の学校ではあまり学ぶ機会がないかもしれない「意見の構築（表明）のしかた」について本授業で具体的に練習し身につけることができたという生徒たちの実感の表れと考えていいのではないだろうか。

反面、平均値が 3.0 を下回った 3つの質問項目について考察すると、2-2「この授業で行った議論・討論において必要な情報を集めることができた」については「情報の集め方」とともに「どのような情報が必要か」についての指導が不十分であった可能性、2-4「この授業で行った議論・討論において課題の解決に貢献できた」については他者を説得できるだけの言語（特に英語）運用能力の不足を示している可能性が高い。また 3-2「この授業を通し、社会の問題について主体的に考えられるようになった」については、希望的観測ではあるが、生徒の自覚として「自分にはまだ主体性が足りない」と感じていること、言葉を変えていうと、これまで様々な問題について主体的に考えることが少なかった生徒たちが主体的に事象を捉えはじめ、自分たちがこれまで主体的に考察してこなかったことを自覚できるようになったことの表れだと捉えてよいのかもしれない。

4. 今後に向けて

普段の授業の中で生徒たちが地球的課題について主体的に考察・行動する力を身につけられるように計画され

た本科目であるが、前項のアンケート結果にも見られるように、授業内容や指導方法についてはまだ多くの改善点が残されている。また英語の使用についても、言語の運用能力が議論・討論の力の伸長の障害要因になっているかもしれない、さらなる検討が必要かもしれない。さらには、調査方法の改善により生徒の変容をより客観的に捉える必要もあるであろう。このように改善の余地は大きい、与えられた課題を一つ一つクリアしていくことでより効果的な授業を生み出すことができると確信し、今後の研究の進展に期待したい。

【参考文献】

- 石井克佳 (2005). エネルギー教育実践校 3年間の取り組み. 「研究紀要」第 42 集, pp. 45-52.. 筑波大学附属坂戸高等学校.
- 工藤泰三・塗田佳枝 (2013). 科目「国際社会」の開発～国際的視野を持った生徒の育成を目指して～. 「研究紀要」第 50 集, pp. 79-96. 筑波大学附属坂戸高等学校.
- 工藤泰三ほか (2013). 平成 24 年度国際教育推進委員会活動報告. 「研究紀要」第 50 集, pp. 57-62. 筑波大学附属坂戸高等学校.
- 工藤泰三ほか (2014). 多言語・多文化社会における市民性の醸成に向けた機能的クリップ ESD 教材の開発と活用～筑波大学附属坂戸高等学校の「国際科」の授業における教材活用を通して～. 2013 年度日本環境教育学会関東支部年報, pp. 25-30.
- 今野良祐 (2012). 「地理 A」における ESD 実践報告～新科目「Global Studies」を見据えて～. 「研究紀要」第 49 集, pp. 93-102. 筑波大学附属坂戸高等学校.
- UNESCO (2012). Shaping the Education of 15 Tomorrow. 2012 Report on the UN Decade of Education for Sustainable Development, 17 Abridged. Paris: UNESCO.

国際科「Discussion & Debate」（2 年次一般選択科目）

2013（平成 25）年度シラバス

授業担当者：工藤 泰三・Alex Compter

1. 本科目の設置目的

本科目は、学校設定教科「国際」の 1 科目であり、生徒が選択する科目群にとらわれることなく多様な視点・関心を持った生徒が会することができるよう、一般選択科目として設置されている。グローバル化が進み、日本においても外国との関係を無視して諸相を語る事が不可能となり、それに伴って日本人同士だけでなく海外の人々とも意見を交換しながら協働することができる能力の必要性が高まる中で、生徒には本科目を受講することにより、日本社会に見られがちな単一性・没個性に囚われず、他者の意見を尊重しつつ自らの意見を明確に表現することができる能力を身につけることを期待する。

2. 本科目の目標

- (ア) 課題解決に向けたディスカッション・ディベートを行うために必要なことは何かを知る。
- (イ) 課題解決に向けたディスカッション・ディベートを行うために必要な情報を集めることができる。
- (ウ) 日本語および英語でのディスカッションを行い、課題の解決に貢献できる。
- (エ) 日本語および英語でのディベートを行い、手順ののっとり効果的な意見の交換を行うことができる。

3. 主な授業内容

【通年】エッセイ・ライティング演習：与えられたテーマについて自分の意見を簡潔に（日本語の場合 400 字程度、英語の場合 100 語程度に）まとめて提出する。

【1 学期】

- ディベートの基礎（4～7 月）：身近なトピックについてのディベートを通し、ディベートに必要な要素について考えるとともに、相手の意見を踏まえながら自身の意見を述べる。1 つのトピックについてまず日本語で、次に英語でディベートを行う。

【2 学期】

- ディベートの実践（9～11 月）：与えられたテーマについて、グループのメンバーと協力しながら必要な情報を収集するとともに、相手の意見を踏まえながら自身の意見を述べる。1 つのテーマについてまず日本語で、次に英語でディベートを行う。

【3 学期】

- ディスカッションの実践（12～3 月）：与えられたテーマについて、他者の意見を踏まえながら自身の意見を述べ、クラス全体の合意を形成する。1 つのテーマについてまず日本語で、次に英語でディスカッションを行う。

4. 主な課題

毎週のエッセイ・ライティング課題、各学期の活動に応じた課題：議論・討論に必要な情報の収集、ワークシート記入など。

5. 評価方法

(ア) 授業内の活動 (50%)：議論への参加、課題解決への貢献度*など

*貢献度評価には生徒による評価を含む

(イ) 課題 (20%)：提出物の評価

(ウ) 定期考査 (20%)：日本語および英語による論述問題 (辞書使用可)

(エ) 平常点 (10%)：出席状況、積極性など

6. 準備するもの

- 筆記用具
- 英語の辞書 (電子辞書でもよい、英和・和英は必須、英英辞典もあると便利)
- ファイル (A4、2穴)
- その他必要なものは適宜指示
- Useful Expressions for Presentation, Discussion & Debate (オリジナル資料)

7. その他

- 課題提出については期限を厳守すること。公欠や長期入院など特別な場合を除き、期限を過ぎて提出された課題は受け取らない。
- Useful Expressions for Presentation, Discussion & Debate は印刷代を後日集金した上で配布する。

8. 年間指導計画

Mon	Day	Activities	Essay Writing	Notes
4	16			Orientation
	23	Deb. 1-J: 筑坂に制服は必要である	1-J: 制服の必要性	
	30			Monday schedule
5	7	Deb. 1-E: School uniforms are necessary for UTSS students	1-E: Necessity of school uniforms	
	14	Deb. 2-J: 筑坂に給食は必要である	2-J: 給食の必要性	
	21	Deb. 2-E: School lunch is necessary for UTSS students	2-E: Necessity of school lunch	
	28	Deb. 3-J:		
6	4	Deb. 3-E:		
	11	Deb. 4-J:		
	18	Deb. 4-E:		
	25	Deb. 5-J:		
7	2	Deb. 5-E:		
	?	期末考査		
9	3	Deb. 6-J:		
	10	Deb. 6-E:		
	17	Deb. 7-J:		
	24			Substitute holiday
10	1			Univ. Anniversary
	8	Deb. 7-E:		
	15	Deb. 8-J:		
	22	Deb. 8-E:		
	29	Deb. 9-J:		
11	5	Deb. 9-E:		
	12	Deb. 10-J:		
	19	Deb. 10-E:		
	??	期末考査		
12	3			Trip overseas
	10	Dis. 1-J:		
	17	Dis. 1-E:		
1	14	Dis. 2-J:		
	21	Dis. 2-E:		
	28	Dis. 3-J:		
2	4			Entrance exam prep.
	11			National Foundation Day
	18			Farewell party for seniors
	25	Dis. 3-E:		
3	?	学年末考査		

★エッセイは日本語・英語とも、パソコンを使用し A4 の紙（縦置き）に横書き、行間を「2行」に設定して書くこと。

<参考：エッセイの書き方 How to write an essay>

この授業で提出するエッセイは、次の3部構成で書こう。

1. Introduction (Topic sentence): 主題に対する自分の主張を明確にする。
2. Body (supporting ideas): 自分の主張を支持する材料（理由、例、データなど）を述べる。
3. Conclusion: 主張を再度明確にする。今後の見通し、課題などを付け足してもよい。

日本語のエッセイの例

日本におけるサマータイムの導入について

2年E組 工藤 泰三

1 多くの人がサマータイムの導入に反対しているが、私は日本にもサマータイムを導入すべきだと考える。2 第一に、サマータイムを導入することによりエネルギーの消費量を減らすことができる。仮に夏の夜7時から11時まで家の照明をつけているとすると、サマータイム導入により起きている時間が1時間前倒しできれば、照明をつける時間が4時間から3時間へと減らすことができる。第二に、日本に住む人々の心の健康の改善につながることを期待できる。サマータイムが導入されれば、現在夕方5時まで仕事をしている人が4時に仕事を終えることができるので、仕事が終わってから日が暮れるまでの時間が延び、多くの人が自分の趣味にこれまで以上の時間を費やすことができるようになり、心のストレスを解消しやすくなる。3 これらの理由で、私は日本にもサマータイムを導入すべきだと考える。いくつか解消しなければならぬ課題もあるが、サマータイムがもたらす効果はそれに十分値するのではないだろうか。(418語)

A sample essay in English

Adopting Daylight Saving Time in Japan

2-E Taizo Kudo

1 I agree with the idea that Japan should adopt daylight saving time (DST) for the following reasons. 2 First, we will be able to reduce the consumption of energy by adopting DST. Suppose you use the lights in your house from 7 pm to 11 pm now. If DST is adopted, the length of time when you use the lights will be shorter by one hour. Second, DST helps people in Japan reduce mental stress. People will be able to have more daytime after work and do something they like for a longer time than now, which may lead to reduction of stress. 3 For the above reasons, I firmly believe that Japan should adopt daylight saving time. (116 words)

【資料 2】「Discussion & Debate」でのディベートの流れ

Min.	Affirmative side	Negative side	Chair/Judge	
3	Affirmative Constructive Speech --Explain why you agree with the idea		MC --Lead the debate --Listen to the debate and take notes for the judgment	
1		(Prepare questions)		
3	Questions / Answers			
3		Negative Constructive Speech --Explain why you disagree with the idea		
1	(Prepare questions)			
3	Questions / Answers			
5	Preparation Time			
3		Attack to affirmative ideas --Refute the affirmative speech		
2	Questions / Answers			
3	Attack to negative ideas --Refute the negative speech			
2	Questions / Answers			
3	Preparation			
3	Affirmative Defense --Refute the attack by negative group			
3		Negative Defense --Refute the attack by affirmative group		
2	Preparation			
2	Affirmative summary --Summarize the idea and clarify the reason why the affirmative ideas are stronger than the negative ones			
2		Negative summary --Summarize the idea and clarify the reason why the negative ideas are stronger than the affirmative ones		
3	Preparation			
3				Judgment -Decide the winner and explain why

【資料3】「Discussion & Debate」授業アンケート用紙

Questions	Evaluation (Circle one) あてはまる ← → あてはまらない			
1. 全体的に見て、この授業は自分にとって有意義だった。	4	3	2	1
2-1. この授業を通し、議論・討論に必要な要素を知ることができた。	4	3	2	1
2-2. この授業で行った議論・討論において必要な情報を集めることができた。	4	3	2	1
2-3. この授業で行った議論・討論において効果的な意見交換を行うことができた。	4	3	2	1
2-4. この授業で行った議論・討論において課題の解決に貢献できた。	4	3	2	1
3-1. この授業を通し、社会の問題を批判的に見られるようになった。	4	3	2	1
3-2. この授業を通し、社会の問題について主体的に考えられるようになった。	4	3	2	1
3-3. この授業を通し、他者の意見を以前よりよく聞けるようになった。	4	3	2	1
3-4. この授業を通し、自分の意見をより明確に述べられるようになった。	4	3	2	1
3-5. この授業を通し、以前よりも日本語での理解・表現力が身についた。	4	3	2	1
3-6. この授業を通し、以前よりも英語での理解・表現力が身についた。	4	3	2	1
3-7. この授業を通し、以前よりも議論・討論が大事だと感じている。	4	3	2	1
4-1. この授業は、いろいろな情報を結び付けて考える力を高めるのに役立った。	4	3	2	1
4-2. この授業は、ある事柄がある状況においてどんな意味を持っているかを考える力を高めるのに役立った。	4	3	2	1
4-3. この授業は、理論立てて考える力（批判的思考力）を高めてくれた。	4	3	2	1
4-4. この授業は、自分の考え方を変えたり豊かにしたりしてくれた。	4	3	2	1
5. 後輩にもこの授業を選択することを勧めたい。	4	3	2	1